

伝光録

平成30年6月第1週放送

毎年六月、^{けいざんぜんじ}瑩山禪師が開かれ、^{つるみ}現在神奈川県横浜市鶴見にある^{だいほんざんそうじ}大本山總持寺において^{でんこうせっしん}伝光会攝心が行われます。^{でんこうえせっしん}伝光会攝心とは^{でんこうろく}修行僧が、『伝光録』という書物の講義を受け、坐禅を組む集中修行期間です。

『^{でんこうろく}伝光録』とは、^{だいじょうじ}伝える光の記録と書き、^{けいざんぜんじ}金沢の大乗寺にて^{だいほんざん}瑩山禪師が、修行僧に向けて説かれた教えを弟子達がまとめた書物といわれ五十三の章からなります。

その一つ一つの章は、^{しゃか}お釈迦さまから始まり、^{だるまだいし}達磨大師へ、そして^{だいほんざんえいへいじ}大本山永平寺を開かれた^{どうげんぜんじ}道元禪師、^{えいへいじ}永平寺の二代目^{えじょうぜんじ}懷^{えじょうぜんじ}井禪師の章で終わります。^{えじょうぜんじ}懷井禪師は、瑩山禪師を正式なお坊さんにした師匠です。瑩山禪師の直接の師匠である永平寺三代目の^{ぎかいぜんじ}義介禪師につきましては、また別の書物に^{あらわ}著されています。

瑩山禪師は、インドから、中国、朝鮮半島を経て日本へ伝わった仏教が、道元禪師から師匠の^{えいへいじ}懷井禪師・^{ぎかいぜんじ}義介禪師へと、途切れることなく自分まで正しく伝わったことに、^{とうと}尊いありがたさを感じていたのではないかと思われま

『伝光録』で弟子達があらわした^{えいざん}瑩山禪師のお姿は、年齢は三十代初めごろ、当時大乗寺住職を勤めていた^{ぎかいぜんじ}義介禪師が、七十代後半の高齢を迎えたため住職に代わり修行僧への指導に情熱をかたむけた様子がこの書物の中にうかがわれます。

書物を読むことによって、その人の思いや行動を追体験することが出来、それによって自分の心の動きや体の動きが^{ととの}整い、人間性が深まると思います。

『伝光録』は、お釈迦さまから続く歴代禪師さまの伝記といえるでしょう。名前

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

しか存じ上げない方々の記録を、追体験することに関してこの『伝光録』は最適です。曹洞宗では、道元禅師の『正法眼蔵^{しょうぼうげんぞう}』とならび宝物ともいうべき書物となっています。

— 終 —